

## 心構え

本稿執筆時点の8月上旬、もうかれこれ半年程の間、世間は疫病による影響を被り続けている。ご不幸に見舞われ大きな悲しみや喪失感を抱えている方もおられると思う。

自分の周りかというと、幸いにも直近に感染者は出ていないし大きな災害に見舞われてもいないが、外出自粛や高齢の親元を訪ねることに制約があるなどそれなりに不自由を感じ、また先行きへの不安も感じつつ生活をしている。また停滞感という面では多くの人が感じているところだろう。

仕事面では昨年末から意気込んで始めたデータ処理が中途半端となっているところに所内異動となり、さらに新たな課題も加わり、気分的にとてもすっきりしたという状況ではない。

そうしたなか在宅勤務体制がしばらく続き、仕事環境の不便さに業務がなかなか進まない時期があった。その後リモート環境が次第に整い効率性は高まってきたが、一方で昼夜となくPCに向かう時間が増えてきている。さらに体重もそれにつれて着実に増えてきて、そろそろ折り返し点に入らなければと危機感が募ってきた。

ただ準備もしている。昨年末から年明けにかけてPC部品を調達、組み立てを進めてきた。雨風でも歩けるようにウェアも買った。あとは着実に実行していくだけである。また周りのこともよく見てそれらを順序よくかたづけていこうと思う。

元に戻るが、某ウイルスは考えることをしない、遺伝情報を利用し増えていく仕掛けを持った機械のようなもので、たがを外せば冷徹にまた押し寄せてくるし、それは想定されることだ。浮ついた気持ちを抑え正視し、なすべきことをなしていきたい。

(寒地構造チーム 席研究員 安中 新太郎)

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。